

2009 年度 在宅医療助成 一般公募(後期) 完了報告書

女性リンパ浮腫治療セラピストの人材養成

~九州各地における在宅患者に対する

リンパ浮腫ケア講習会活動支援のために~

九州大学病院 リハビリテーション部
作業療法士 太田 祐子

福岡県福岡市東区馬出 3-1-1

平成 23 年 2 月 24 日

1. はじめに

申請者が所属する九州大学病院はがん診療連携拠点病院であり、リハビリテーション部作業療法部門では特に乳がん術後患者へのリハビリテーションがクリティカルパスの下で日常的に行われており、リンパ浮腫患者への関わりも多い。リンパ浮腫は、日本乳がん学会の研究班（2006年）によると、術後の54%の患者からリンパ浮腫が確認されている。小川（リンパ浮腫、2003年）によると、リンパ浮腫患者の男女比が男性8%、女性92%であり、また乳がん患者は女性が99%と圧倒的に女性患者が多くを占めている。

当院リハビリテーション部にはNPO法人日本医療リンパドレナージ協会（MLAJ）主催の講習会を修了したリンパ浮腫治療セラピストが1名いるが、男性理学療法士である。女性患者が圧倒的に多いリンパ浮腫に対して、乳房のケアや下着の指導など、より細かな対応が、男性セラピストでは困難な現状があった。男性セラピストからの介入に対して、患者の拒否や抵抗感を示されたケースもあった。

申請者は乳がん術後患者に対するリハビリに従事しているが、その内容は術後評価や可動域訓練、生活指導、弾性着衣指導に留まっていた。リンパ浮腫ケアに有用とされる複合的理学療法の技術が不足しているため、リンパ浮腫患者のニーズに十分に対応できていないという問題があった。当院は、がん診療連携拠点病院であり、がん医療の均てん化を推進していく必要がある。そのために、がんのリハビリテーションに携わるセラピストの技術力向上は必要不可欠である。今回、リンパ浮腫を専門とした女性セラピストが増えることで、リンパ浮腫を呈する女性患者への配慮や、より細かな対応が可能になるものと考えた。

2. リンパ浮腫治療セラピスト

日本ではリンパ浮腫治療セラピストは国家資格として認められていない。しかし、リンパ浮腫の治療には複合的理学療法*1などの専門的知識と技術を要する。先進国であるドイツでは、国家資格として認められており、資格保有者は約3万人である。日本では、リンパ浮腫治療セラピスト（中級以上）数は、359人（平成19年、MLAJ調べ）で、そのうち医療機関に勤務しているセラピストは273人と少ない現状にある。

*1複合的理学療法：国際リンパ学会で推奨されるリンパ浮腫の保存的治療法。

3. 医療リンパドレナージセラピスト育成講習会

今回は日本医療リンパドレナージ協会（MLAJ）が主催するリンパ浮腫治療セラピストの育成講習会にのみ参加した。当初予定していた、LPC主催リンパ浮腫研修会はMLAJ主催講習会と日程が重なっていたために受講できなかったためである。

腫研究所 所長)

上記の2本立てである。

当日は、九州各地から多数の参加があった。リンパ浮腫患者だけでなく、患者ご家族やリンパ浮腫に取り組んでいる医療者の参加も多くみられた。

講演会後では、質疑応答の場が設けられて沢山の意見交換がなされた。



図 1.リンパ浮腫講演会の模様(小川医師による講演)

②リンパ浮腫に対する弾性着衣勉強会

平成23年2月19日、リンパ浮腫患者グループ「あすなろ会」主催で、医療者向けの勉強会を開催。申請者は、当院や九州・山口エリアのリンパ浮腫治療セラピストと共に運営などに携わった。

内容は、弾性着衣についてで、リンパ浮腫患者からの各メーカーの弾性着衣の特徴や日常生活で注意が必要な点などについて生の声を聞かせていただいた。また、参加した医療者は、臨床場面での悩みや疑問について意見交換をする場となった。



図 2.弾性着衣勉強会の模様(患者会代表者による弾性着衣の説明)

6. 結果

申請者が、8月にリンパ浮腫治療セラピストの育成講習会を修了してから、リンパ浮腫患者に介入する機会が増加した。

図 3 に示すように、修了前は、乳がん術後患者への介入は入院患者の術後評価や可動域訓練、生活指導がメインであったが、修了後より、外科外来からのリハビリオーダーが増加して、入院患者より外来患者が上回る結果となった。

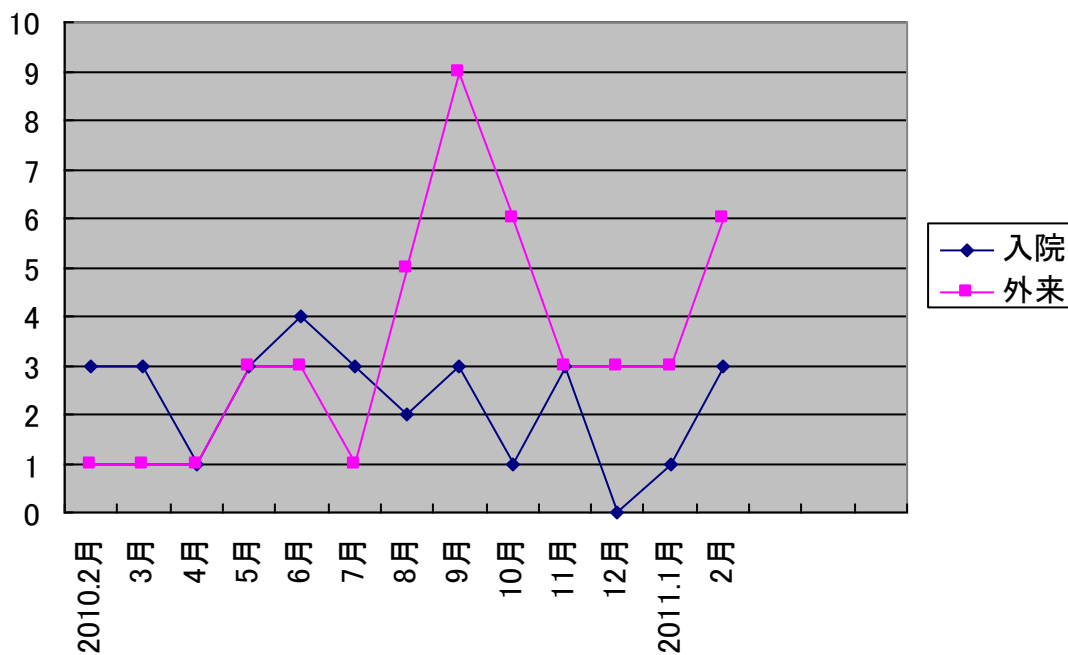


図 3 乳がん術後患者の推移(申請者担当分)

図4に示すように、修了後よりその患者に応じた複合的理学療法を実施することが出来て、治療のバリエーションが増加した。そして、介入により目に見えて浮腫軽減されたケースもあった。患者からは、よりきめ細やかな対応が可能となり治療効果が上がったことで、大変喜ばれている。

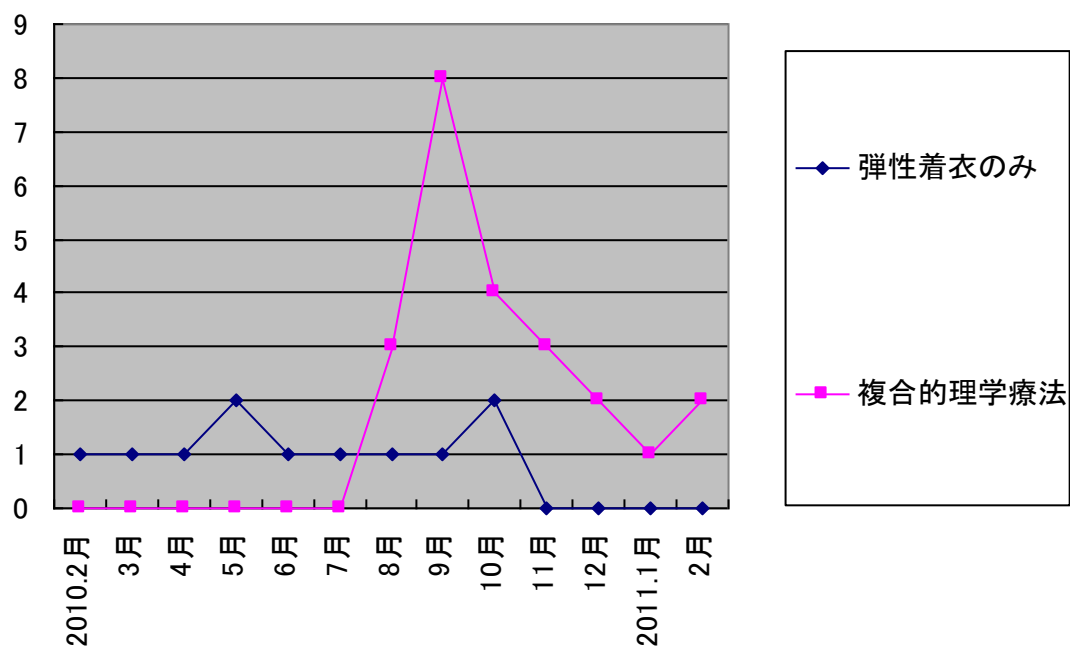


図4 リンパ浮腫治療方法の推移(申請者担当分)



図5 複合的理学療法 (リンパドレナージ)



図 6 複合的理学療法 (バンテージ)



図 7 複合的理学療法(バンテージ完成)



図 8 複合的理学療法(圧迫下での運動療法)



図9 複合的理学療法(弾性スリーブ。自己管理用として使用。)

副題としていた、九州各地における在宅患者に対するリンパ浮腫ケア講習会活動支援までには携わることはできなかったが、当院に来院している在宅患者へのリンパ浮腫治療には積極的に関わることが出来た。

7. まとめ

申請者は貴財団の助成を受け、リンパ浮腫治療セラピスト認定資格を獲得した。このことにより、リンパ浮腫に対して、複合的理学療法を実施することが出来て、治療効果も向上し、患者のQOL向上に貢献した。術直後ではなく、十年近く経過してから発症を認める患者も多く、在宅患者の経過を追っていくことが大切である。

8. 謝辞

今回、公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団より助成を受けて、女性リンパ浮腫治療セラピストの人材養成を行うことができたことを、深く感謝いたします。